

ほかほか

2026
新年挨拶号



根室市：歯舞漁港からの日の出

INDEX

- 代表理事組合長挨拶
- 代表理事専務挨拶
- JA北海道中央会 代表理事長挨拶
- 普及センター所長・酪農試験場長挨拶
- 青年部長・女性部長挨拶
- 株ASAHISupportセンター代表取締役社長挨拶・1月の運勢
- JA道東あさひ預託事業お問い合わせ先





年頭にあたり

道東あさひ農業協同組合

代表理事組合長 浦山 宏一



新年あけましておめでとうございます。組合員の皆様には御家族お揃いで新しい年の門出を迎えるされました事とお慶び申し上げます。併せて、日頃より農協事業に対し特段の御理解と御協力を賜り感謝と御礼を申し上げる次第であります。

泥沼化するウクライナ侵攻、高関税政策を連発し米国第一主義を掲げるトランプ政権、低迷する中国経済や欧洲諸国での右傾化の台頭等、コロナ禍以降世界経済やグローバルな国家間の秩序が混乱の様相を呈しています。

又、世界規模での気候変動は動植物の生態系にも大きな影響を及ぼし、我々農業者にとつてもこれらの対応に苦慮しているところであり、全ての当たり前が当たり前でない時代になりました。

このような時代背景の中、令和7年北海道における生乳の生産目標は402万3千トンに設定され、当農協には36万9千8百トンが配分されました。

これをもとに生産組合員各位には計画生産下ではあるものの、意向調査に沿った型で當農計画を基本として生産をしていただいているところですが、依然として高止まりが続く配合飼料や生産資材、燃料価格の上昇や労働力不足等、生産環境は厳しいままであり、飼料生産においても一番牧草収穫後の高温続きと小雨による干ばつ気味により、主体草種であるチモシーの減退や周期的な降雨による二番牧草の収穫の遅れ、9月初旬の台風によるデントコーンの折損や倒覆等、組合員の皆様には苦労の多い一年であったと思います。

農政をめぐる動きでは、昨年4月に新しい「食料・農業・農村基本計画」が閣議決定されるとともに、「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針（酪肉近）」が公表されました。

生産量等の数値目標に加え、基本計画には「平時からの食料安全保障を実現する観点から、初動5年間で農業の構造転換を集中的に推し進める事」、酪肉近には「生乳や牛肉の需要拡大への取り組みと、需要に応じた生産の推進による需要ギャップの解消」「従来の生産手法の見直しを含む、生産コストの低減・生産性の向上」「国産飼料の生産・利用の拡大を通じた輸入飼料依存度の低減」「環境負荷低減などの取り組みの推進」という目指すべき方向性が記載されています。

基本計画並びに酪肉近の実現に向けては、地域農業生産基盤が維持されますが、関係人口の減少、生産コスト

トの高止まりなど、多くの課題に直面しています。とりわけ、酪農畜産においては、投下資本が多額にならざるを得ないことに加え、生物と向き合うために一年を通じて當農に従事しなければならず、農業情勢の影響をより強く受けている実情にあります。

こうした中で迎える令和8年は、前述の基本計画や酪肉近に基づいた施策が進められていくと考えられ、とりわけ基盤整備の観点からは畜産クラスター事業での酪農の成牛舎及び搾乳牛舎の整備が再開される事が決まっています。

又、牛舎の新設のみでなく持続性の向上にも目を向けられ、補改修や中古機械の導入も推進する等、より持続的な経営の推進に内容にもなっております。

ここ数年来、当農協では3%から4%程度の組合員が離農され毎年5,000トンから7,000トンの生乳が失われています。この10年間の農地の流動化は1万haを越えています。それでもこれらの失われた乳量を吸収して生産量を確保し、農地を維持してこれたのは継続して続けてきた基盤整備と生産活動へのためぬ努力だと思います。

酪農は当地の基幹産業であり地域経済そのものであります。そのためにも経営の規模や飼養形態に捉われることなく地域の総合力としての生産量の確保と域内外の流通を含めた飼料生産基盤の維持・管理が重要であり、そのためにも畜産クラスター事業等は有益であると考えられます。詳細が決まり次第皆様にお知らせ致しますので、有効に活用いただきたいと思います。

今、当農協の平均的な乳価は、共販経費控除前ではありますが132円前後になっています。

勿論、この価格によつてすべてが解決できるとは考えておりませんが、物価高やエネルギーコストの上昇、或いは今年から始まるセーフティーネット資金の返済にも一定程度対応できるのではないかと考えます。

今年はコロナ禍以降棄損していた生産現場からの脱却第一歩となる年とするべく、農協としてもサポート体制の確立に向け全力で取り組んで参りますので、組合員の皆様にも尚一層の御尽力をお願い致します。

最後になりますが、令和8年度が組合員御家族皆様にとって実り多き一年であり、併せて御健勝と御多幸を御祈念申し上げ、年頭の御挨拶といたします。



三方よしの一年

道東あさひ農業協同組合

代表理事専務 齊 藤 春 雄



新年あけましておめでとひいわごます。

組合員の皆様そして、家族一同希望に満ちた新年を迎えられ、心よりお慶び申し上げます。

近年の酪農を取り巻く課題は、生産抑制や猛暑、生産資材等のコスト高に目を向けがちですが、本来の協同組合の設立目的からすると、夫々の事柄は相互扶助や、仲間との連携で乗り越えることが可能ではないかと考えます。そして協同の力を最大限發揮できる環境を整える事で、今後の地域酪農の持続と安定に寄与できると思います。

全道の酪農家戸数も4千979戸台にまで減少し、全国においては一万一千戸と前年比で5%の減少となつておひ、今こそ當農の質と当たり前の當農技術の励行が重要だと、そして組合員皆様が、「今だけ・今だけ・自分だけ」ではなく、相互扶助の精神に立ち返つて、JA活動を皆で取り組めば、益々連帯と協同の成果を実現できると思ひます。

また、近江商人の経営理念とされる「売手よし・買手よし・世間よし」。売手の収益、買手の満足、地域社会の貢献といった様に、JAも「組合員よし・職員よし・JAの地域貢献よし」の道東あさひ農業協同組合であることが大事だと思います。

パートナーの組合員と職員の信頼関係で、我々組合員の経営サポートを担う職員が、働きやすい環境と、心理的安全性の職場であることが我々當農の力強い協力関係性を育むJAを展開でき「食を守り、生命をつなぎ、より良い環境を保つ、地域貢献」が可能だと考えます。

又、昨年は新しい地区懇談会の形を模索する中で組合員交流会を試み、今までにない大人数の参加をいただき、當農以外の意見

も交わされる等、収穫の多い集いになつたことと、今後の取り組みの先駆けになつたと思ひます。

昨年夏のミルクハウスの売上も1,300万円と好調で、今年も同様のサービスがでれるよう取り進めます。

昨年12月10日に発売開始の当組合「ラムネミルク」の「アーミー・リッチ・ミルク」も、マリボーチーズと併せて、広く当組合の「マーシャルアイテム」として活用していきます。

本年6月頃からはソフトクリームをメインとしたキッチンカーの稼働を予定、各地の催し物、パイロットスピリッツの試合会場などでの販売を目指していきます。

その他集会等で発信させていただきました、北海道を拠点に活動する音楽バンドHAMBURGER BOYSの酪農応援ソングの「生乳 Say You Say Me」が完成し、生乳生産量日本一のJA道東あさひを広くSNS発信や企業説明会で人材募集のツールの一つとして、酪農を支える仕事を選択するきっかけになるよう進めていきます。

結びとなります、私なりの立場でこの一年を取り組み、そして本年が組合員御家族皆様にとって穏やかで実り多き年でありますよう」祈念申し上げ、年頭の御挨拶いたします。





令和8年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会

代表理事長 樽 井 功



新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、日々勤農に更に邁進されておられることがあります。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日々より多大なる尽力をされてこられることに対しまして、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の北海道農業については、春先から天候に恵まれ、各作物の生育は全般的に平年よりも順調に推移しておりましたが、道内の広範囲において被害が発生した夏場の記録的な豪雨や干ばつにより、各作物等の収量および品質に影響が出た一年となりました。近年、気候変動等による自然災害の多発や栽培適地の変化、円安基調の継続や国際紛争等に起因する資材価格の高止まりが農業経営に大きな影響を与えており、農業・農村を取り巻く環境は大きな変革期を迎えております。

置付けられた、「国民一人一人の食料安全保障の確保や環境と調和のとれた食料システムの実現、持続可能な北海道農業の確立」に向けて、組合員・JAの声を国政に届ける活動を継続していきます。

JAグループ北海道は、今後とも組合員との対話活動を一層強化し、協同組合の理念と精神を組織結集力につなげ、組合員の皆様が夢と希望を持つて営農と生活が続けられる環境を整え、「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」の実現に全力で取り組んでまいります。

結びになりますが、本年は午年です。午年はエネルギーと行動力が高まり、挑戦や成長の機会が得られる年とされています。この謂われにあやかり、本年が北海道農業の更なる飛躍の年となることを、皆様の「多幸と」「健勝を」祈念申し上げ、年頭の「挨拶」といたします。

この様な状況の中、昨年7月に実施された参議院議員選挙において、組合員・JA役職員をはじめとする多くの皆様の「支援をいただき、全国農業者農政運動組織連盟が推薦した東野ひでき氏を国政に送り出す」とができました。

この一歩を重要な礎とし、改正基本法により基本理念として位





年頭のご挨拶

根室農業改良普及センター

所長 齊藤 博昭



新年明けましておめでとうございます。

J A道東あさひ組合員ならびにご家族の皆様におかれましては、新春をお健やかにお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また、日頃より農業改良普及センターの活動に対し、ご理解とご協力を頂いておりますことに厚くお礼申し上げます。

さて、昨年の農作物生育状況を振り返りますと、平年よりも気温は高く、降水量は少なく推移しましたが、天候は周期的に変動し、9月には発達した低気圧の影響でまとまつた降雨となりました。

総じて天候に恵まれたことから、牧草は1番草で生育が良好となり、収穫・調製も順調に進みました。が、2番草では7月の高温少雨により生育が緩慢となり、平年より収量がやや少ない状況でした。飼料用とうもろこしは、生育が平年より極めて良好に推移したことから高い収穫量と栄養価が期待されました。が、9月の低気圧による暴風雨で倒伏や折損等の被害に見舞われました。それにより圃場での収穫口スが多く発生し、サイレージ貯蔵量の不足や発酵品質の低下等が懸念されます。酪農経営に対する影響を未然に回避するため、サイレージ在庫量の確認や飼料分析の実施など、早めの対策を講じる必要があります。

酪農経営を取り巻く情勢が大きく変化する中、昨年4月に国の食料・農業・農村基本法改正に基づく「食料・農業・農村基本計画」が決定されました。新たな基本計画においては、初めて北海道が「主要穀物などの主産地」であることが明記されるなど、わが国の食料供給地域としてさらに重要な役割を果たしていくことが求められています。

農業改良普及センターとしても、本道ならびに根室地域の農業・農村の持続的な発展に向けて、農業者や関係機関の皆様と一緒にながら、地域に根差した普及活動に引き続き取り組んで参ります。令和8年が皆様にとりまして輝かしい希望に満ちた年となり、豊穣の秋を迎えることを心よりご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

新年明けましておめでとうございます。J A道東あさひ組合員並びに職員の皆さんには、日頃より当場の試験研究にご協力いただき深く感謝を申し上げます。

さて、中標津町に農業試験場が設置されたのは昭和2年で、その当時は原野を開拓して作物を育てるという「畑作」が試みられていましたと記録にあります。ただ、気候冷涼な北海道の中でも特に気象条件の厳しい当地域では、6月に晩霜あるいは9月に早霜の被害に見舞われる年もあるなど、畑作物を育てるには大変大きな苦労が伴つたようです。そうした気象条件に合わせるように畑作から酪農へ軸足を移し、それがこの地域の農業の姿を作り上げてきました。特に別海町は、市町村別生乳生産額が日本一で、Googleで検索すると「別海町は：『酪農王国』と呼ばれています。」と紹介されているほどです。しかし今では、6月や9月に降霜の害を目にすることは無く、かえってチモシーの夏枯れに代表されるような高温の悪影響に気を揉むような年が続いています。北海道の統計によれば、管内の麦栽培面積が右肩上がりで増えているそうです。かつて畑作から酪農へと遷移してきた根釧地域の農業が、気候変動の影響でその姿を再び変えようとしているのかも知れません。

気象条件だけではなく、国際的な経済状況の変化は、飼料や燃料価格への直接的な影響を受け酪農経営を左右する大きな要因となっています。規模が大きく機械化や自動化が進んでいる北海道酪農こそコスト増という難局に直面しているのでしょうか。

こうした中、当場でも温暖化対策や生産コストを押さえるための新技術開発にも力を入れています。そして、これら新技術については、今後も引き続きこの広報誌「ぽかぽか」を通じて広く・迅速に皆さま方への情報発信に取り組んでいきたいと考えています。

結びになりますが、新しく迎えた令和8年が皆さんにとっても地域社会全体にとっても実り多い一年になることをご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

道東あさひ農業協同組合青年部
部長 福岡 裕也



新年あけましておめでと「わ」ります。皆様におかれましては、令和8年の新年をつたがなくお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。また日頃より青年部事業に対しまして「家族、組合員、関係機関の皆様方には」理解と「支援、」協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年の酪農情勢を振り返りますと乳価の引き上げがあり、経営改善が進んだ一方で飼料価格、肥料価格、生産資材の高騰は依然として続いております。不安定な国際情勢で円高も続いており、その影響もあり機械や施設建設のコストも高く、新規投資も難しい状況です。

近年続いている酷暑の影響もあり、組合員の皆様は生産量確保のため暑熱対策等を講じ「」苦労されていると思います。厳しい酪農情勢が続き離農戸数も年々増加し、今後も不安な状況です。

牧草収穫においては、6月頃は好天が多く一番草収穫においては良質な飼料が確保出来たと思われますが、8月以降断続的に降る雨に皆様ご苦労されたかと思われます。また9月頃の強風でデントコーンが倒伏してしまい、収穫に苦労された組合員の方も多かったと思われます。

青年部事業につきましては、青年部本部では例年受け入れております釧路教育大生のファームステイ事業の参加や農水省への視察研修並びに意見交換会を行い、今後の農政について深く学ぶことが出来ました。また衆議院会館、参議院会館への表敬訪問も行いました。12月に北海道青年部大会に参加し、全国各地の青年部盟友とも交流を深めました。各支部におきましても各地域のイベントへの参加や食育活動、うし焼きの提供、支部との視察研修や交流会の実施など活動に活動して参りました。酪農戸数の減少にともない青年部の部員数も年々減少していく中ではあります、今後も若き青年部の力で事業を推進して参ります。

最後になりますが、本年も青年部活動に対しまして「」理解と「」協力を賜りますようお願い申し上げますと共に、皆様の「」健康と「」多幸をお祈り申し上げ、新年の「」挨拶とさせて頂きます。



新年のご挨拶

道東あさひ農業協同組合女性部
部長 早坂 紀恵



新年あけましておめでと「わ」ります。皆様におかれましては、輝かしい令和8年の新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、日頃より女性部活動に対しまして「」理解と「」協力を賜り心よりお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみると、豪雨災害、米不足による米の価格高騰、記憶に新しいものとしては熊による作物や人的被害などが発生しました。

酪農情勢においては、飼料価格、光熱費、人件費などのコストは依然として高止まりしており、厳しい酪農情勢は続いている。気候においても夏場の40度超えの猛暑による乳量の減少などがあり、今後の夏場の暑熱対策がますます必要になってくるかと想います。

女性部活動といたしましては、支部毎の活動に加え、全体での活動として今年度も焼肉交流会を行い支部間の部員交流もできました。

また、来年度は4支部合同の2年に一度の道外視察研修旅行も予定していますので、たくさんの部員の皆さんに参加していただきたいです。

その他の活動として、地域社会、教育活動への貢献として「べつかいみんなの食堂まる」へ牛乳などを提供していましたが、来年度は積極的に参加もしていきたいと思っています。

今後も各支部の活動に加え、全体での活動もしっかり行いながら女性部活動を進めていきたいと思います。

最後になりますが、本年も私たち女性部に対しまして、変わらぬ「」指導「」協力を願いするにともに、皆様の「」健康と「」多幸をお祈り申し上げ、新年の「」挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

株式会社 ASAHIサポートセンター
代表取締役社長 斎藤 春雄



新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、ご家族お揃いで輝かしい新年

をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年も皆様にとりまして、実りの多い一年となります

ようご祈念申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、酪農ヘルパーに関わる

人材の確保につきましては、新採用3名、中途採用1名

の確保が図られましたが、期中退職もあり依然として

定期的な休日の取得については利用者の皆様のご要望に

応えられない状況が続いております。人材確保につきま

しては、あらゆる機会を通じて道内のみならず都府県の

会社説明会への出展や学校訪問を実施致しましたが、特

に酪農関係の仕事を希望される人が極端に減つて来てお

り、本年においても継続的な重点課題と考えております。

コントラ事業では、収穫作業面積・スラリー散布面積

とも昨年を若干下回りました。大きな要因として不定期

の雨による遅れや、受託先が広範囲のため移動に時間を

要したこともあります。本年については収穫機械も1

セット増加となることから、効率的な作業の確立が重要

と捉えております。

また、近年の温暖化の影響によりギシギシが占有して

いる草地が増加傾向にあり、今後も防除及び除草作業の

増加に対する取り組みも重要な要素となつて参ります。

酪農情勢については、止まらぬ物価高騰もあり未だに

厳しい状況が続いているが、今こそ酪農の基本である「土・草・牛づくり」に向けた取り組み強化が必要です。

酪農情勢については、止まらぬ物価高騰もあり未だに

厳しい状況が続いているが、今こそ酪農の基本である「土・草・牛づくり」に向けた取り組み強化が必要です。

酪農情勢については、止まらぬ物価高騰もあり未だに

厳しい状況が続いているが、今こそ酪農の基本である「土・草・牛づくり」に向けた取り組み強化が必要です。

酪農情勢については、止まらぬ物価高騰もあり未だに

厳しい状況が続いているが、今こそ酪農の基本である「土・草・牛づくり」に向けた取り組み強化が必要です。

結びになりますが、皆様のご健康とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせて頂きます。

HOROSCOPE

今月のあなたの運勢 (1月)

By モナ・カサンドラ

牡羊座 3/21~4/19



全体運 繁張感を持って事に当たれば道が開けます。一つ一つ丁寧に前へ進めていきましょう。下旬に変化の兆しあります。

健康運 疲れを感じたら無理をしないこと、休めば回復

幸運の食べ物 セリ

牡牛座 4/20~5/20



全体運 力になってくれる人は身近に。相談すれば役立つ話を聞けそうです。旅行、外出はいつもより遠出を。海外も◎

健康運 スポーツを楽しめる好調運。下旬は慎重に

幸運の食べ物 ナバナ

双子座 5/21~6/21



全体運 気になっていることがあっても様子を見て、時間があなたの味方をしてくれます。情報をよく集めましょう

健康運 気になるところは早めにケアを。健診もお勧め

幸運の食べ物 レモン

蟹座 6/22~7/22



全体運 ドキッとする事のある吉凶混合運。プラス面に目を向けて。ポジティブ思考がツキを引き寄せます。古物が吉

健康運 けがに気を付けて。動く前に準備運動を

幸運の食べ物 シュンギク

獅子座 7/23~8/22



全体運 周囲の世話を焼くのは◎。ただ見返りを求めるごくシャクします。善意ができる範囲にとどめましょう

健康運 適度な運動が体調維持の鍵。ストレッチが吉

幸運の食べ物 セロリ

乙女座 8/23~9/22



全体運 効率のある好調運。実力をアピールすれば念願がかないます。すぐには諦めず強気で、華やかな場所でツキあり

健康運 良好です。体を動かしてパワーアップ!

幸運の食べ物 長ネギ

天秤座 9/23~10/23



全体運 壁を越えるチャンスです。難しいと感じていることにこそ熱心に取り組んで。良い解決策が見つかります

健康運 パース配分が大切。下旬は運動量を増やして◎

幸運の食べ物 小松菜

蠍座 10/24~11/22



全体運 コミュニケーションが活発化。たくさんの人と会うほど幸運に恵まれます。調べものや勉強にも良いときです

健康運 大きく深呼吸。腹式呼吸で酸素不足を解消して

幸運の食べ物 ユリ根

射手座 11/23~12/21



全体運 高め安定運。心配事が解消へと向かいます。おいしいものを食べて活力アップ! 季節限定のメニューを楽しんで

健康運 眼をよくいたわって。カリンや蜂蜜が味方に

幸運の食べ物 伊予柑

山羊座 12/22~1/19



全体運 とてもパワフルな主役運。周囲への影響を意識して動きましょう。大きな成果を得られます。出会いを大切に

健康運 ヘッドマッサージで血行を促進。髪のケアも◎

幸運の食べ物 芽キャベツ

水瓶座 1/20~2/18



全体運 上昇運です。順を追うように整っていく流れに任せて。周囲の言葉に耳を傾けるとチャンスをつかめます

健康運 バランスの良い食事と運動で免疫力をアップ

幸運の食べ物 キンメダイ

魚座 2/19~3/20



全体運 望んでいた方向へと歩み出すことができるとき。決意を持って事に当たりましょう。助けになってくれる人も近くに

健康運 肩甲骨のストレッチを。肩凝り解消にも効果あり

幸運の食べ物 ミズナ

賀
込

新しい年も
命と希望をつなぐ
架け橋に



JA道東あさひ

JA道東あさひ 預託事業 お問い合わせ先

- 別海哺育・育成預託センター ☎0153-75-0288
- キャトルセンター ☎0153-76-5100
- 西春別畜産センター ☎0153-77-3330
- 根室育成センター ☎0153-24-6594
- 別海町営畜牛育成牧場 ☎0153-75-6458



令和8年1月1日発行 発行/JA道東あさひ 編集/営農部 営農振興課 住所/北海道野付郡別海町別海緑町116番地9
電話/(0153) 75-2201(代表) ホームページ<https://www.ja-doutouasahi.or.jp> メール/kikaku@ja-doutouasahi.or.jp

